

## 市指定の文化財

きゅうしま づ し た ま ざ と て い な が や もん  
**旧島津氏玉里邸長屋門**

有形文化財（建造物）  
 平成 28 年 3 月 23 日指定  
 所在地：鹿児島市玉里町  
 所有者：鹿児島市



この長屋門は、鹿児島(鶴丸)城から退いた27代島津齊興<sup>なりおき</sup>の居宅であった玉里邸の門の一つである。敷地を画する石垣上に直接建てられた長屋門で、天保6(1835)年に造営されたといわれる。明治10(1877)年の西南戦役で焼失を免れたというのが明らかでない。

明治12(1879)年3月に再建された玉里邸は、太平洋戦争中の昭和20(1945)年7月19日の戦災では西側の茶室と庭園、南側の正門及び北側の長屋門とその付近の建物を残して消失した。

その後、昭和26(1951)年に鹿児島市が玉里邸を買収。昭和32(1957)年10月に鹿児島女子高等学校の校舎が建設され、昭和34(1959)年4月に天保山から全校移転した。

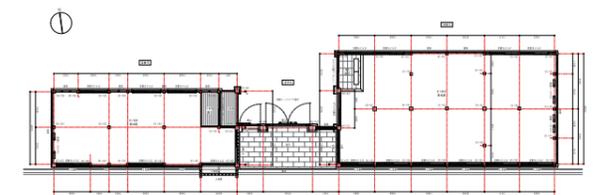
長屋門は昭和61(1986)年の校舎増築に先立つ昭和60(1985)年に移設工事が行われ、門と接続する長屋の一部が180度向きを変えて現在の位置に移された。

長屋門は武家門に長い多聞櫓(長屋)を従えたものであった。長屋は、県指定となった、垂水島津家の居城跡(現垂水小学校)の石垣上に建てられた「お長屋」(平成26年指定)があるが、中心に武家門を備えた長屋門は県内唯一である。

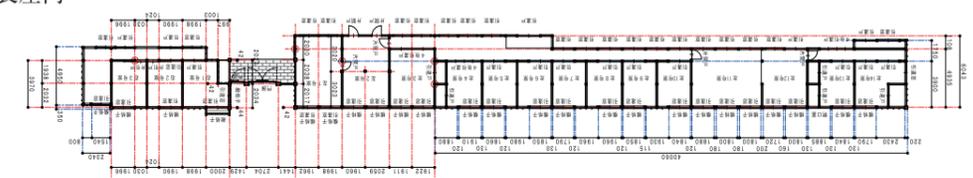
西南戦争及び太平洋戦争による戦災で木造の伝統建築建がほとんど残っていない本市において、切り詰めて移動されてはいるが、従前の主要部材を利用して本来の外観を留めており、大変貴重で文化財的価値が高い。現在は鹿児島女子高校の資料室として利用されている。



旧島津氏玉里邸長屋門



①  
 現状平面図



移設前平面図



移設前写真(合成)

市指定の文化財

くろ だ せい き  
**黒田清輝 作**  
**「アトリエ」**

有形文化財（絵画）  
 昭和 49 年 3 月 15 日指定  
 所在地：鹿児島市立美術館  
 所有者：鹿児島市

この作品は、20号(72.8×60.6cm)のキャンバスに油彩で描かれたものであり、黒田清輝が24歳の明治23(1890)年に、フランスのコランの研究所に通っていた頃の、ある日のアトリエの情景を写生したものである。

情景を極めて印象的にとらえ、光による明暗の諧調が柔らかく、明るく表現されており、帰朝後に、日本に外光派の新風を取り入れた黒田芸術の片鱗を思わせる作品である。

作品の描かれた当時は、パリ万国博覧会が開かれ、印象主義の先駆者の傑作が多数出品され、印象派がパリの画壇に迎えられたようになった頃である。



「アトリエ」

(写真提供：鹿児島市立美術館)

くろ だ せい き  
**黒田清輝 作**  
 さくら じま ふん か れん さく  
**「櫻島噴火連作6点」**

有形文化財（絵画）  
 昭和 49 年 3 月 15 日指定  
 所在地：鹿児島市立美術館  
 所有者：鹿児島市

この作品は0号の板に油彩で描かれたものであり、大正3(1914)年に父の見舞いのために帰郷していた時、桜島大爆発の情景を時と所を変えて写生したものである。画家として芸術的感動をもって描いた作品であると同時に、噴火の状況を如実に表した記録画としても貴重なものである。

「櫻島噴火連作6点」とは次の作品である。

- ① 築港より見たる「噴煙」(油彩板)
- ② 「噴火」(油彩板)
- ③ 浄光明寺より見たる「溶岩」(油彩板)
- ④ 鹿児島における「降灰」(油彩板)
- ⑤ 横山村溶岩より生ずる「湯気」(油彩板)
- ⑥ 小池村の「荒廢」(油彩板)



「櫻島噴火連作」

(写真提供：鹿児島市立美術館)

はつ た とも のり  
**八田知紀 筆「竹」**

有形文化財（絵画）  
 昭和 49 年 3 月 15 日指定  
 所在地：鹿児島市立美術館  
 所有者：鹿児島市

この作品は、縦155.3cm、横152.5cmの条幅・料紙に描かれた日本画で、八田知紀が好んで描いた梅・竹のうちの一つである。

作品は、竹の線質と御家流的な書の調和がよく整った作品である。作者の文人的な側面が表出したかのような格調の高い作品で、絵、書、歌の立場からも貴重な書画一致の作品であるといえ、「かな」は独自の境地を開いている。

作者の八田知紀は、通称を喜左衛門、桃園と号し、香川景樹の流れを汲む歌人である。明治元(1868)年に皇学所御用係を拝命し、後に文部省から編輯寮語彙係を命ぜられ、明治5(1872)年には歌道御用係となった。



「竹」

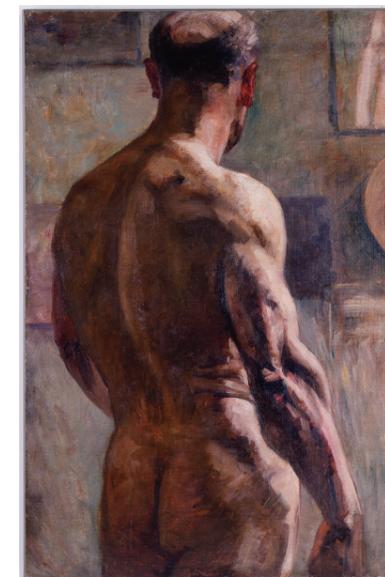
(写真提供：鹿児島市立美術館)

ふじ しま たけ じ  
**藤島武二 作**  
 ら たい しゅう さく  
**「裸體習作」**

有形文化財（絵画）  
 昭和 52 年 5 月 20 日指定  
 所在地：鹿児島市立美術館  
 所有者：鹿児島市

この作品は、25号のキャンバスに油彩で描かれたもので、藤島武二がフランスに留学中の明治39~40(1906~1907)年の作品である。淡い茶褐色に灰色が加わり、階調に統一性を持たせた手法を用い、後頭部の薄くなった壮年男子の背面裸像を巧みに描き出している。大半が暗部で占められ、暗部の微妙な変化を執拗に追究しており、西洋絵画の伝統的手法によって、真摯に描かれた作品である。光の統一的效果や構図に注意が払われている。

作品が描かれた当時は、セザンヌが没して間もない頃で、後期印象派が台頭した頃でもあるが、藤島武二は地道に画業修業に専念していたという。



「裸體習作」

(写真提供：鹿児島市立美術館)

## 藤島武二 作 「中国風景」

有形文化財（絵画）  
昭和 52 年 5 月 20 日指定  
所在地：鹿児島市立美術館  
所有者：鹿児島市

この作品は、40号のキャンバスに油彩で描かれたもので、藤島武二が昭和13(1938)年に第1回満州美術展審査員として中国に渡り、蒙古、熱河、北京等を旅行したとき制作したものである。

この作品は、厚い地塗りが施され、彩色は空の色面の密度の厚さを除いては、薄塗りであり、一見未完成のままの感じさえする。これは藤島武二が71歳の時の円熟した時代の作品であるだけに、作画上の精神態度として示唆に富む画格の高い作品となっている。



「中国風景」

(写真提供：鹿児島市立美術館)

## 和田英作 作 「赤いマッチ」

有形文化財（絵画）  
昭和 52 年 5 月 20 日指定  
所在地：鹿児島市立美術館  
所有者：鹿児島市

この作品は、大正3(1914)年に25号のキャンバスに油彩で描かれ、同年の第8回文展に出品された。

和田英作の友人渋沢栄一の息子・秀雄（当時帝大生）をモデルに、伊豆の土肥海岸で描いたものである。

清澄な青い海をバックに明暗の微妙なトーンをとらえ、マッチを持つ人物の両手のしぐさが自然に表現されている。夏の光を巧みに描く手法は、外光派の代表的な画家として活躍した和田の力量を示しているといえよう。



「赤いマッチ」

(写真提供：鹿児島市立美術館)

## 有島生馬 作 「スザンナ」

有形文化財（絵画）  
昭和 55 年 5 月 28 日指定  
所在地：鹿児島市立美術館  
所有者：鹿児島市

この作品は、縦35cm、横27cmのキャンバスに描かれたもので、明治42(1909)年フランスに留学していた有島27歳の時の作品である。

セザンヌの回顧展を見て、深い感銘を受けて以来、自分のアトリエで制作に励んでいた頃の作品で、堂々とした気迫を感じる。

有島生馬は、兄武郎、弟里見淳の3兄弟の一人としてよく知られており、当時の美術界に影響を与えたセザンヌの存在を、『白樺』誌上で発表するなど、欧州の新しい傾向の美術を情熱的に日本に紹介した。



「スザンナ」

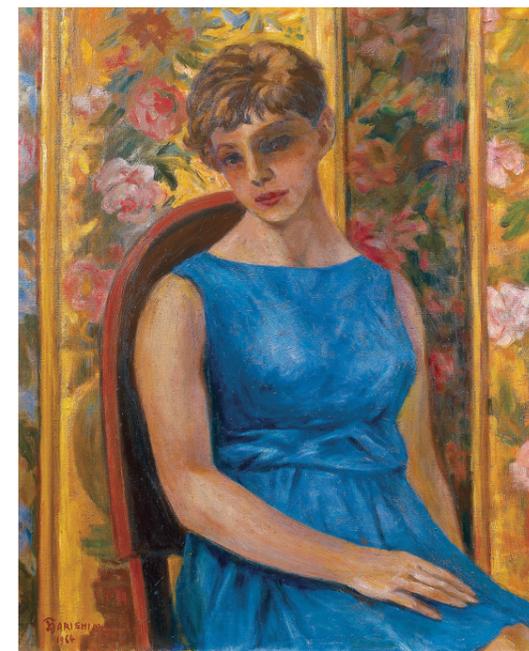
(写真提供：鹿児島市立美術館)

## 有島生馬 作 「巴里娘」

有形文化財（絵画）  
昭和 55 年 5 月 28 日指定  
所在地：鹿児島市立美術館  
所有者：鹿児島市

この作品は、25号のキャンバスに描かれたものである。昭和39(1964)年有島が82歳の時、3回目の渡仏時に制作した作品で、その年の日展に出品された。

セザンヌに傾倒した有島だったが、本作品は形態の量感や空間の構築性というよりは、マチスのような強い色彩の調和がみられる。背景の黄とコスチュームの青の強い対比が画面全体の緊張感をつくり、周囲に配された桃色の花がそれを和らげて優しい雰囲気を湛えている。



「巴里娘」

(写真提供：鹿児島市立美術館)

もも たりゅう えい  
**桃田柳栄 筆**  
 かん によ ず かん いっ かん  
**「官女図巻」 一卷**

有形文化財（絵画）

平成3年2月27日指定

所在地：鹿児島市立美術館

所有者：鹿児島市

この作品は、江戸時代前期の狩野派の画家で、探幽の高弟であった桃田柳栄の代表作の一つといわれ、長さ11mに及ぶ大作である。日本美術史上重要な作品であると同時に、江戸期の薩摩藩と中央画壇との結びつきを示す貴重な資料であると考えられる。さらにこの図巻は、柳栄の作品として本県で確認されている数少ない作品の一つである。

桃田柳栄(1647~1698)は、狩野探幽門下四天王の一人に数えられており、今の大阪府和泉市に生まれたとも伝えられている。

『古画備考』には、「薩摩ニ五百石ニテ被抱、其国ニ畫多ク有之由」という記述があること

から、彼が薩摩藩御用絵師であったことがわかる。

作風は、探幽風をよく守りながらも柔和な筆致に特色があり、彩色には特にすぐれた感性が感じられ、本作品には、そのような柳栄の画風が顕著に見て取れる作品であるといえる。描かれているのは中国の官女たちの生活風俗で、活気にあふれた人物描写が見られる。

なお、本作品は昭和61(1986)年、鹿児島県内の旧家で発見されたものであるが、もとは島津家の所蔵品であったといわれている。



「官女図巻」部分  
 (写真提供：鹿児島市立美術館)

お だ は しょ こう しょう つば  
**小田派諸工匠の鑿**  
**24 枚**

有形文化財（工芸品）

昭和49年3月15日指定

所在地：鴨池一丁目

所有者：松元久雄

これらの鑿24枚は、初代直香在銘6枚と直香作と考えられる無名のもの2枚、2代直教在銘9枚と直教作と考えられるもの2枚、3代直昇在銘2枚と直昇作と考えられるもの2枚、後代直堅在銘1枚の、計24枚である。いずれも秀作であり、かつ、保存状況も良好

で小田派作風の全貌を伺い知ることができる、まとまった貴重な工芸資料である。

江戸時代中期における薩摩藩内の刀装具彫金界には知識系と並んで小田直香系諸工の二大流派があった。

初代小田直香の製作年代は宝暦年間、2代直教は天明、寛政年間を中心とし、以下数代にわたり谷山地区に居住して製作を行っている。

その作品は、全国的にも著名で、珍重されたものもある。

初代直香の代表的図柄は、「小田ドンのタツワケ（鉦豆）」、「竹割虎」等と称され、世人の賞美するところとなって、後世、他諸派諸工の作風にも強く影響した。



小田派工匠の鑿 各種の彫り

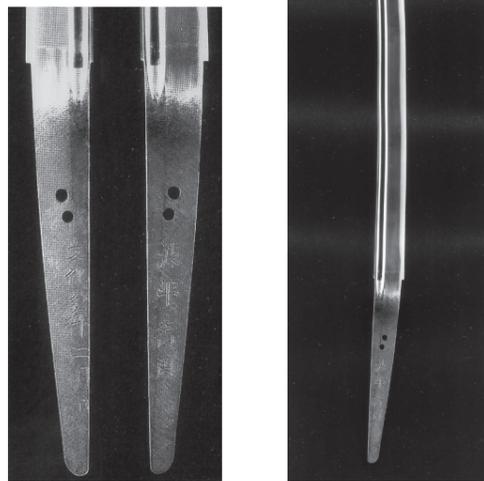
かたな めい なみの ひら ゆき ちか  
**刀 銘 波平行周**  
 文化八年二月 日

有形文化財（工芸品）  
 昭和 52 年 5 月 20 日指定  
 所在地：鹿児島県歴史資料センター黎明館  
 所有者：鹿児島県

この刀は、徳川時代の寛政・文化(1789～1818)年間の頃に活躍した第 61 代 四郎右衛門行周の作品である。

この刀は地刃健全で、かつ、鍛、焼刃ともによく一派の作風を表した傑作の一つである。

長さ 74.4cm、反り 1.2cm。形状は、<sup>しのぎづくり</sup>鑄造、<sup>いおりむね</sup>庵棟、身巾広く、重ねやや厚く、反り浅く中鋒である。鍛は、<sup>こいため</sup>小板目めよくつみ、わずかに大肌交じり、地に地沸厚くすく。刃文は、<sup>はだ</sup>広直刃、<sup>ひろすく</sup>沸匂深くつき、<sup>く</sup>互の目、足しきりにはいる。茎は、生ぶ、先細りところに刃上栗尻、<sup>やすり</sup>鑿目檢垣、目釘孔は 2 あり、片面に「文化八年二月 日」と製作年を刻んでいる。



行周の刀

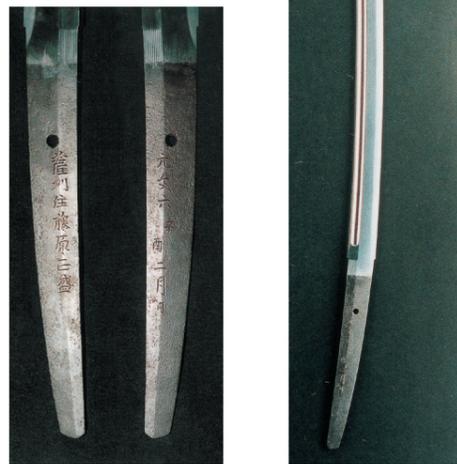
かたな めい さっしゅうじゅう ふじ わら まさ もり  
**刀 銘 薩州住藤原正盛**

有形文化財（工芸品）  
 昭和 52 年 5 月 20 日指定  
 所在地：鹿児島県歴史資料センター黎明館  
 所有者：個人

この刀は、丸田惣左衛門正房に<sup>たんとう</sup>鍛刀の術を学んだ後、主水正清の弟子としてその製作・<sup>もんだのかみ</sup>代作に協力した弓削藤原正盛の作品である。

この刀は、地刃健全で、出来が見事であり、師の正清の作域に迫るものがある。

長さ 72.1cm、反り 1.5cm。形状は、鑄造、庵棟反り浅く先反つき中鋒。鍛は板目つみ、刃寄り僅かに流れた大肌交じり、地沸厚くつく。刃文は直刃調、<sup>のた</sup>処々浅く湾れ、小互の目交じり、物打辺二重刀となり、総体に足入り、匂深く沸むらつき、砂流しかかる。茎は、生ぶ、先入山形、鑿目勝手下がり、目釘孔は 1 あり、片面に「元文六年辛酉二月 日」と製作年を刻む。



正盛の刀

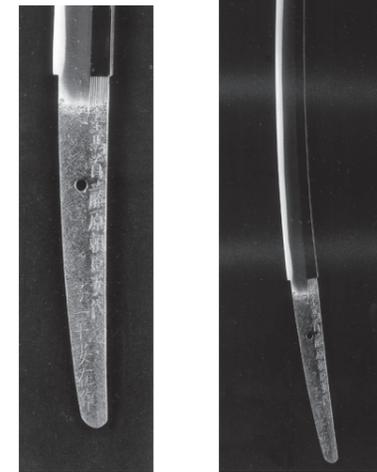
(写真提供：鹿児島県歴史資料センター黎明館)

かたな めい しゅうめの かみ ふじ わら あ ぞん  
**刀 銘 主馬首藤原朝臣**  
 やす よの こ いっ べい あり さく さく  
**安代子一平安在作**

有形文化財（工芸品）  
 昭和 52 年 5 月 20 日指定  
 所在地：個人蔵  
 所有者：個人

この刀は、享保 13 (1728) 年に亡くなった主馬首安代の養子である安在の完成した一派の作風をよく示した豪壮、見事な出来の作品である。

長さ 71.5cm、反り 2.4cm。形状は、鑄造、庵棟身巾広く、棟を卸し中間反り高く、中鋒延びごころ。鍛は、板目つみ、流れごころに地沸細かにつき、地班交じる。刃文は、直刃処々浅く湾れごころに沸匂深くつき、物打辺互の目足入る。茎は、生ぶで、先栗尻、鑿目檢垣、目釘孔は 1 つ、「宝暦十一辛巳」と製作年を刻むとともに親子の関係を明記している。



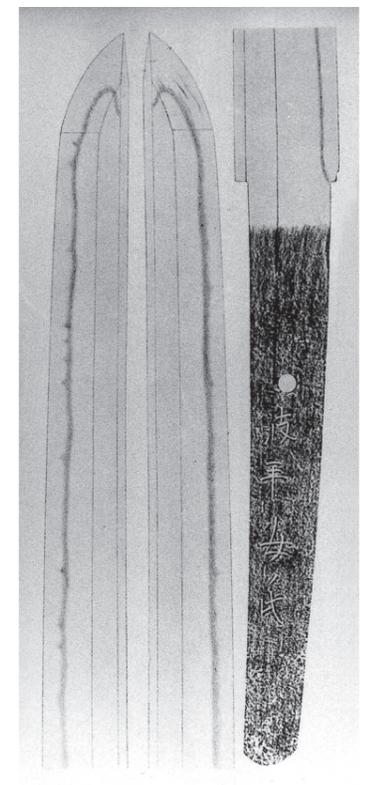
安在の刀

かたな めい なみの ひら やす うじ  
**刀 銘 波平安氏**

有形文化財（工芸品）  
 昭和 52 年 5 月 20 日指定  
 所在地：個人蔵  
 所有者：個人

この刀は、安常の次男で初め安氏と称していた第 60 代波平勘之丞安行の、波平作風を代表する作品である。

長さ 71.2cm、反り 1.8cm。形状は、鑄造、庵棟反りややつき、中鋒。鍛は、板目よくつみ、地沸厚くつき、表腰元刃寄りに<sup>あやすぎ</sup>綾杉風に<sup>じはん</sup>地班交じる。刃文は処々浅く湾れ、匂口深くやや荒目の沸つき、互の目入る。茎は、生ぶ、先栗尻、鑿目檢垣、目釘孔は 1 つである。



安氏の刀

かたな めい やまとのかみ なみのひら やす ゆき  
**刀 銘 大和守波平安行**

有形文化財（工芸品）

昭和 52 年 5 月 20 日指定

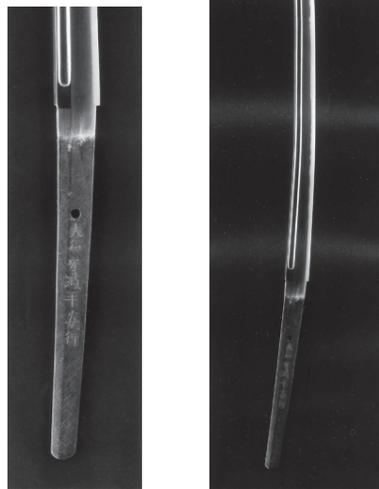
所在地：鹿児島県歴史資料センター黎明館

所有者：個人

この刀は、都城島津家に伝来していたもので、波平第 57 代三郎兵衛安行の作品である。安行は藩命により相州伝を学び、いわゆる「新刀波ノ平」の作風を確立している。

長さ 75.4cm、反り 2.0cm。形状は、<sup>しのぎづくり</sup>鑄造、<sup>いおりむね</sup>庵棟やや反りつき中鋒。鍛は、板目つみ流れた大肌交じり、上半荒沸むら立つ。刃文は、直刃調、処々浅く小さく湾れ、総体に小互の目交じり、小足入り、匂口締りところに湾つく。茎は、生ぶ、先栗尻、鑢目桧垣、目釘孔は 1 つ。

なお、付属の刀拵<sup>こしらえ</sup>も江戸時代中期の作で、薩摩拵の典型として貴重なものである。



安行の刀

(写真提供：鹿児島県歴史資料センター黎明館)

かたな めい おくやまとのかみ たいらのあそん もと ひら  
**刀 銘 奥大和守平朝臣元平**

有形文化財（工芸品）

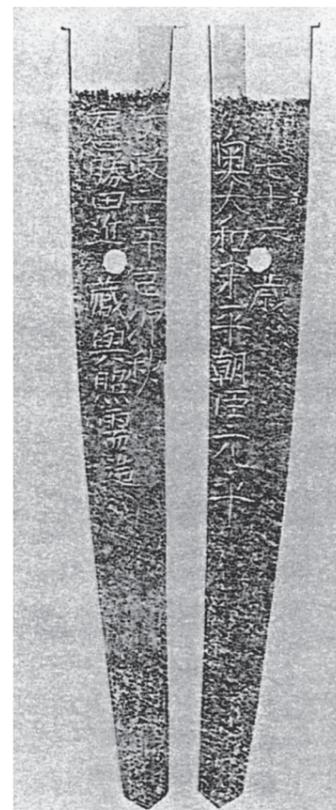
昭和 52 年 5 月 20 日指定

所在地：個人蔵

所有者：個人

この刀は、父元直に鍛錬の法を学んだ奥元平の作品である。

長さ 68.5cm、反り 1.8cm。形状は、<sup>しのぎづくり</sup>鑄造、<sup>いおりむね</sup>庵棟、身巾広く、反りやや高く、中鋒。鍛は、板目よくつき、地沸つき、地景入る。刃文は、互の目尖りごころの刃交じり、足入り、匂深く沸よくつく。茎は、生ぶ、先剣形、鑢目筋違、目釘孔は 1 つで、「文政二年己卯秋応勝田近蔵興照需造」と製作年等を刻んでいる。



元平の刀

たん とう めい なみのひら とも やす さく  
**短刀 銘 波平友安作  
 「八月吉日」**

有形文化財（工芸品）

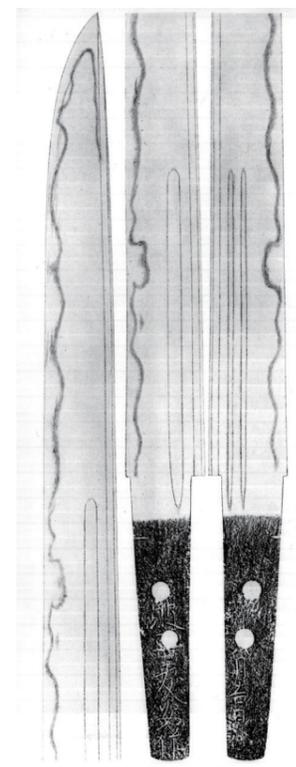
昭和 55 年 5 月 28 日指定

所在地：鹿児島県歴史資料センター黎明館

所有者：鹿児島県

この短刀は、慶長以前（南北朝期の頃と推定）の古刀波平で、造りがすぐれ、かつ健全なものであり、全国的にも例が少なく貴重なもので、資料的にも価値が高い。

長さ 27.8cm で打ち反り。形状は、平造、三ツ棟身巾広めに内反りつく。鍛は、小板目に空交じり、表はつみ、裏はやや肌立ちごころに刀寄りに流れ、地沸つく。刃文は、小のたれを主張に、大互の目、箱がかつた小のたれ交じり、沸つき、砂流しかかり、表裏ノ刃文揃いごころとなる。茎は、生ぶ、先栗尻、鑢目桧垣、目釘孔は 2 つ。



友安の短刀

(写真提供：鹿児島県歴史資料センター黎明館)

かたな めい なみのひら ちか やす  
**刀 銘 波平近安**

有形文化財（工芸品）

昭和 58 年 4 月 12 日指定

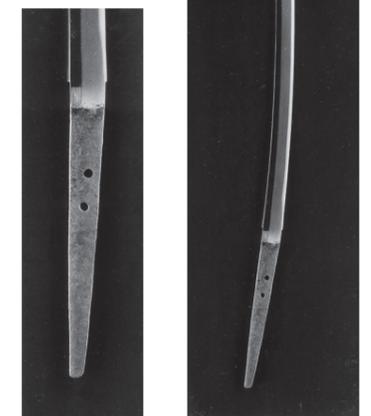
所在地：個人蔵

所有者：個人

この刀は、古波平 3 代行安の六男近安の作品である。古刀波平の作風は時代による変遷が少ないため、製作年代を決めることが困難であるが、鎌倉時代を下らないものと鑑定されている。

長さ 69.5cm、反り 2.6cm。形状は、鑄造、庵棟細身、鑢巾狭く腰反深くつき、小鋒。鍛は、板目流れて肌立ち、大肌流れ柁まじり、地沸ついて地景まじる。刃文は、細直刃調に小乱れ、小足入より沸づいて荒目の沸まじる、下半身は沸深く匂うるみごころまじり砂流しかかり、金筋入り焼落としがある。茎は、生ぶ、先、刃上がり栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔は 2 つ。

なお、この刀は、昭和 54 (1979) 年に日本美術刀剣保存協会から重要刀剣に指定されている。



近安の刀